

2007年3月20日 専門調査会説明資料

**効果的なリスクコミュニケーション
のあり方に関する研究から
(一部抜粋)**

関澤 純
徳島大学総合科学部

(1) 客観的な指標によるリスクコミュニケーション活動の評価の試み

評価基準設定のための検討項目例

目標の設定： 課題と戦略、対象の確認、達成目標

組織体制： 必要な人材の確保と連携体制

計画段階： 目的・対象の確認、情報収集と問題点の分析、
協力できる関係者・時期・場の選択、メッセージと
提供手法、質問・意見への対応準備

実施段階： 資料準備、発表内容、質問・コメントへの対応

事後のフォローと今後への検討：

理解と効果の判定（主体側と参加者の評価）、意見の
意思決定への反映と判断、リスク管理への意見や質問
への対応、信頼性の評価と検討

(1) 客観的な指標によるリスクコミュニケーション活動の評価の試み

- 1 意見交換会の事例別 パフォーマンス評価から

リスクコミュニケーションの性格別対応の必要

- (A) **緊急時対応**：主に管理マター、相手別の正確な知識の普及が重要（ノロウイルス食中毒事例）
- (B) **関係者の理解推進**：日常の正確な知識の理解と普及が主眼（妊婦へ魚介類中メチル水銀摂取注意や大豆中イソフラボン摂取量上限設定事例）
- (C) **参加型リスク管理推進**：理解と普及に加え協調による政策形成と多様な意見の検討と意思決定への反映が中心（BSEリスク評価と管理の事例）

**(A) 魚介類より摂取するメチル水銀による
胎児の知能発達への影響リスク**

- (i) 評価の概要：摂取・発症の関係と体内動態をほぼ解明、ヒトデータを基にリスク評価**
- (ii) 妊娠中・妊娠可能な女性、保健指導担当者、水産関係者が**主な対象****
- (iii) 理解の普及、わかりやすい情報の広範な提供が**目的****

**(B) 健康食品摂取としてイソフラボン過剰摂取による
潜在リスクを考慮した摂取量上限値設定**

- (i) 評価概要：生理周期の延長など明確なリスクを示すものではない**
- (ii) リスクの可能性のある女性、保健指導者、健康食品取扱関係者が**主な対象****
- (iii) 広く用いられる「健康食品」のベネフィットとリスクの理解と周知が**目的****

(C) 米国・カナダ産の牛肉輸入とBSEのリスク

- (i) **評価概要**：リスクの大きさほぼ解明、対策も明確、発症メカニズムの詳細などは不確実
- (ii) 消費者、牛肉生産・取扱い業者、行政関係者が**主な対象**、米国の対策の向上と日本政府の交渉姿勢などリスク管理が関心の焦点
- (iii) 評価と管理措置はほぼ明確なことの理解の推進と行政への不信感の低減が**主な目的**

パフォーマンスの評価例 - 1

メチル水銀リスク：行政関係者(31%)と食品関連事業者(24%)が多数、配布資料、専門家講演、意見交換会応答を70%前後が「わかりやすかった」

イソフラボン摂取の健康影響：食品関連業者が大半(47%)と、研究教育機関(15%)。配布資料・講演・意見交換会の応答は80%以上「わかりやすかった」、「パネル討論で知りたい事柄が語られた」70%とパネル討論評価、「伝えたいこと・知りたいことの意見交換はできなかった」が多く(43%)「理解が深まった」は少ない(33%)、信頼度は「変化なし」(62%)。討論時間や発言者数の制約は少人数の意見交換の場の必要性を示す

パフォーマンスの評価例 - 2

牛肉輸入とBSEのリスク：

* 消費者団体や無職・主婦・学生の参加多数。配布資料、講演「わかりやすかった」60%台、意見交換会の応答「わかりにくかった」36%

* 評価案を「理解していなかった」が「理解が深まった」多く、成果。行政の役割分担を「知らなかった」96名中59名の理解が深まり、正しい情報を伝える意義あり。食品安全委員会を「信頼していなかった」「どちらでもない」では「信頼が深まった」より「不信感が増強された」が多く、態度変容の抵抗は大きい。

* 応答は生産者、無職・学生・主婦、消費者団体、マスコミ関係者は「わかりにくかった」予備知識を持たない人に短時間の説明で理解させることに無理がある。

* 行政関係者、研究・教育機関、食品関連事業者と生産者の多くは、評価したが、無職・学生・主婦、消費者団体の評価は高くなかった

(1) 客観的な指標によるリスクコミュニケーション活動の評価の試み

- 2 情報提供の内容と手法の検討例

厚生労働省医薬局食品保健部基準課(平成15年6月)

: 食品安全委員会評価を受け2年後に別途の公表

「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」と約2週間後に「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」について(Q & A)」を公表



東京都区市町村の母子保健担当者の意見：「唐突な印象」「マスコミ報道が国の行政通知より早く保健所の対応に混乱」「Q & Aを先立ち準備し周知すべき」「注意事項の正しい理解のために」なじみにくい言葉で記述

厚生労働省Q & Aの理解しやすさ

(特に赤字下線部分に注目)

(全文14頁、Q:480字 A:9300字 7枚の図表:5.5頁と数式を含む 全17問)

1行が長文で主語移動。赤字部分は何を意味するか
すぐに呑み込めない!

『バンドウイルカについては1回60~80gとして2ヶ月に1回までツチクジラ、コピレゴンドウ、マッコウクジラ及びサメ(筋肉)については、1回60~80gとして週に1回までメカジキ、キンメダイについては、1回60~80gとして週に2回までなお、妊娠している方等以外の方々はすべての魚種等について妊娠している方等にあっても上記の魚種等を除き、現段階では水銀による健康への悪影響が一般に懸念されるようなデータはないこと、魚介類等は一般に人の健康に有益であることから、できるだけ、魚介類等を含めバランスよく食品を食べて健康の維持に努めましょう。』

イギリス食品基準庁(FSA)のQ&Aの例

(全10問。1頁程度。詳しく知りたい人向け情報の案内あり)

Q : What is the problem with mercury in fish?

A : Nearly all fish contain traces of mercury and in most fish this is not a problem. But certain fish contain relatively high.

中学生にわかる英文は、発表内容をFSA内部の心理学やコミュニケーションの専門家がチェックしている!

→ 適切な人材の確保と連携の必要性